

贅沢貧乏

# わかるうとは おもっているけど

ZEITAKU BINBOU  
“I’m Trying To Understand You, But”Written and directed by Yuri Yamada, Music by Yuumi Kanemitsu  
with Minami Ohba, Masayuki Yamamoto,  
Mayu Sakuma, Konomi Otake, Sachiko Aoyama作・演出：山田由梨  
音楽：金光佑実

大場みなみ



山本雅幸



佐久間麻由



大竹このみ



青山祥子

2025年

12月6日(土) 18:00開演

12月7日(日) 13:30開演

久留米シティプラザ Cボックス

〈上演時間70分間予定(途中休憩なし)〉

※開場は開演の30分前

**TICKETS** 料金(全席自由・税込)

一般 3,500円

U25(25歳以下) 2,000円 高校生以下 1,000円

※U25・高校生以下チケットは入場時要証明書提示

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

※託児サービス有(定員有/要事前予約/無料 TEL 0942-36-3000)

※車椅子でご来場の方は事前に久留米シティプラザまでお問い合わせください。

**チケット発売日**

2025年9月21日(日) 10:00～

**チケット取扱**

久留米シティプラザ2階総合受付

(10:00～19:00/全館保守点検による休館あり)

久留米シティプラザ オンラインチケット

<https://kurumecityplaza.jp/pages/ticke>「わかるうとはおもっているけど」  
公式WEBサイト久留米シティプラザでは、独自の視点で時代を捉え、  
表現方法を模索し応答しようと試みる意欲的な作品をセレクトし、  
「知る／みる／考える 私たちの劇場シリーズ」として上演しています。

主催：久留米シティプラザ(久留米市)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
久留米市 | 独立行政法人日本芸術文化振興会

久留米シティプラザ

〒830-0031 久留米市六ツ門町8-1

(10:00～19:00/全館保守点検による休館あり)

TEL:0942-36-3000(代)

FAX 0942-36-3087

関連事業①

くるめフォーラム2025

「男女の性差の根源とは？」

久留米女性週間記念事業に

山田由梨がゲスト出演するトークイベントです。

日時 2025年10月4日(土) 16:30～18:00

会場 えーるピア久留米 301・302 学習室

申込締切 9月27日(土)必着

関連事業②

プレレクチャー

「劇場で考える～わかりあうこととは～」

多様な価値観が交差する時代に、

他者をどのように理解していくのか。

鑑賞の手立てとなるトークイベントです。

日時 2025年10月19日(日) 14:30～16:00

会場 久留米シティプラザ 中会議室

ゲスト 井上智史(九州大学大学院人間環境学研究院講師)、  
吉岡麻衣(言語聴覚士、ことばの教室ことりんく代表、  
どげんね!うきは共同代表)

申込締切 10月18日(土)必着

関連事業③

シアターカフェ

観劇を経て、思ったこと、考えたことをシェアします。

日時 2025年12月7日(日)終演後 ※1時間30分程度

会場 久留米シティプラザ 中会議室

進行 柴山麻妃(演劇批評家)

※関連事業①②③の料金は無料です。(申込優先)申込方法など  
詳細は久留米シティプラザ公式WEBサイトをご覧ください。

わかるうとは  
おもっている  
けど

I'm  
Trying to  
Understand  
You, But

贅沢貧乏

2025.12.6 SAT, 12.7 SUN

久留米シティプラザ Cボックス



わ  
か  
ら  
う  
と  
は  
お  
も  
っ  
て  
い  
る  
け  
ど

## STORY

テル(大場みなみ)とこうちゃん(山本雅幸)はどこにでもいるような普通のカップル。  
あるとき、テルが妊娠した、という出来事から空気が変わり始め、  
テルの友達(佐久間麻由)やなぜか家にいる  
メイドたち(大竹このみ・青山祥子)を巻き込んでゆく。  
「女性」と「男性」の「わかりあえなさ」を  
「わかりあおう」とした先にあるものとは――。



『わかれとうはおもっているけど』2019年初演 BUKATSUDO HALL(横浜)

久留米シティアラザが「知る/みる/考える 私たちの劇場シリーズ」として紹介する『わかれとうはおもっているけど』は、日常生活にひそむ性別による役割分担の意識や社会のしぐみに問いを投げかける演劇作品です。2019年初演以来、2022年パリ公演では観客から「妊娠という問題を通して、日本が抑圧的な社会構造を脱却できないことに疑問を投げかけている」「リアリズムと不条理の境界線で、現代日本に立ちはだかる家父長規範をあぶり出している」など好評を博した贅沢貧乏のマスターピースを劇団初の国内ツアーとして東京・久留米・札幌で上演いたします。

### 観劇をご検討される方へ

本作品には、パートナー間の性暴力を想起させる描写がございます(直接的な描写はございません)。フラッシュバック等のご不安がある方には、戯曲データを事前にお送りいたします。ご希望のお客さまはお問い合わせください。また観劇にご不安がある方、途中退席しやすい通路側のお席を希望される方、そのほか必要なサポートがある方はzeitaku.binbou@gmail.comまでご相談ください。可能な限りスタッフがサポート・お手伝いいたします。

## TOUR INFORMATION

東京 11.7 fri - 11.16 sun  
東京芸術劇場 シアターイースト

久留米 12.6 sat, 12.7 sun  
久留米シティアラザ Cボックス

札幌 12.13 sat, 12.14 sun  
クリエイティブスタジオ(札幌市民交流プラザ3階)

## STAFF

音楽: 金光佑実 美術: 中村友美 照明: 吉田一弥 音響: 星野大輔  
衣裳: 藤谷香子・山口大樹 稽古進行: 中村未希 舞台監督: 湯山千景  
収録: 須藤崇規 宣伝美術: 柴田リオ 宣伝写真: 川面健吾  
プロデューサー: 堀朝美 企画制作: 贅沢貧乏 / 株式会社ソナタ

## COMMENTARY

作家・演出家・俳優である山田由梨は、フェミニストでもある。

彼女は男女を隔てるもの、つまり妊娠というテーマを、ユーモアと聡明さをもって作品化した。この東京出身のアーティストは、現在と近未来の境に演劇のスタイルを設定し、想像を超えたシーンや仮説を提唱する。

洋風のリビング。少し離れた距離で若いカップルが会話している。冗談を交えた、やや距離感のあるやり取りは、言葉にされないものをごまかす雑談のように聞こえる。そう、ここで女性は、自分が妊娠したことを相手に伝えられないのだった。この作品はリアルな会話劇とファンタジーの世界との間を自由に行き来しながら、主人公の内面に渦巻く葛藤を複数の女性キャラクターに分散する形でモザイク状に描き出す。

俳優たちはどこか面白おかしく、ときには室内のドタバタ劇のような演技をするのだが、悲喜劇の苦味も見せてくる。それは、お菓子箱のように柔らかなヴィジュアルの美術との対比を生む。そして舞台上には見えるものと見えないもの、リアルと象徴といった要素が共存する。

劇中の絶妙に計算されたズレ、そして意外な結末を通し、山田由梨はパラドックスの手法を立ち上げる。その手法をもって山田は見事に、私たちが想像する以上に男性中心的な社会である今の日本、その中に生きるカップルの現実を万華鏡のごとく映し出すのだ。

メラニー・ドゥルエール  
フェスティバル・ドートンヌ(フランス・パリ)2022年 プログラムより

贅沢貧乏  
過去作品  
オンライン  
配信中!

贅沢貧乏の最新作  
『おわるのをまっている』(2024年)ほか  
過去作品Vimeoにて有料配信中。  
ご自宅でじっくりお楽しみいただけます!  
視聴方法: レンタル購入後7日間視聴可能です。



贅沢貧乏主宰・山田由梨による

## “わかおも” 3 Tips



山田由梨  
(作家・演出家・俳優)  
Yuri Yamada

1992年東京生まれ。立教大学在学中に「贅沢貧乏」を旗揚げ。全作品の作・演出を務めるほか、ドラマ脚本・監督、小説・コラム執筆も手がける。『フィクション・シティ』(17年)、『ミクスチュア』(19年)で岸田國土戯曲賞ノミネート。セゾン文化財団セゾンフェロー。21年、23年、25年にかながわ短編演劇アワード 県内高校生選抜大会 審査員、25年にせんがわ劇場演劇コンクール 専門審査員を務める。主な担当ドラマに、Abema TV「17.3 about a sex」「30までにとるさく」脚本。NHK夜ドラ「作りたい女と食べたい女」脚本。WOWOW「にんげんこわい」シリーズでは脚本・監督として参加。Podcast「山田由梨の眠れないなら茶をのんで」がSpotifyにて配信中。 Instagram @yamadayuri\_v

### この作品をつくろうと思ったきっかけは何ですか?

この脚本を書いた27歳当時、今後自分は妊娠・出産・子育てをする可能性があるのだからと考え始めた時、政治家による「女は産む機械」発言に現れるこの国に根付く女性蔑視や、日本のジェンダー格差が、今までよりも自分ごとと感じられたことがきっかけでした。そこから妊婦や母を神聖視することへの違和感や、妊娠出産にまつわる男女の不均衡に焦点を当て、自分の言葉で考え表現したいと思い作品を作りました。



### About 贅沢貧乏

2012年旗揚げ、東京を拠点とする劇団。山田由梨が全作品の作・演出を務め、俳優の大竹このみ・田島ゆみか・青山祥子、制作の堀朝美の5名が所属。舞台と客席、現実と異世界、正常と狂気の境界線をシームレスに行き来しながら、現代の日本社会が抱える問題を奔放な想像力と多彩な手法でポップに浮かび上がらせる作風を特徴とする。2014年より一軒家やアパートを長期的に借りて創作・上演する「家プロジェクト(uchi-project)」の活動を展開。『みんなよるがこわい』(2015年初演)の中国版が中国全土を巡回。『わかれとうはおもっているけど』(2019年初演)が2022年フェスティバル・ドートンヌ公式プログラムとしてパリで上演されるなど国内外で活動の幅を広げている。

Instagram @zeitakubinbou

## Z E I T A K U B I N B O U H I S T O R Y

2012 山田由梨20歳のときに一人芝居で旗揚げ  
在学中から積極的に学外の劇場で公演活動を行う。

2014 大学卒業後、江東区の一軒家やアパートで  
「家プロジェクト(uchi-project)」を開始  
二階建ての家の中を歩きまわって観劇する  
2016 『ヘイセイ・アパートメント』で話題を呼ぶ。

2017 史上最年少で芸劇eyes単独公演に登場、  
『フィクション・シティ』を上演。  
岸田國土戯曲賞にノミネート。  
『みんなよるがこわい』で劇団初の海外ツアー

2018 中国版『みんなよるがこわい』を創作・初演。  
以降2023年まで中国全土を巡回。

2019 『わかれとうはおもっているけど』『ミクスチュア』初演。

2022 『わかれとうはおもっているけど』パリ公演  
コロナ禍で2度の中止延期を経て実現。全5公演が満席に!

2024 最新作『おわるのをまっている』をシアタートラムにて上演。

2025 『わかれとうはおもっているけど』で劇団初の国内ツアー!



『スーパーミラー』(2012年)  
大学のお昼休みに一人芝居を上演!



『ヘイセイ・アパートメント』(2016年)  
東京の下町で生きる女性2人の物語  
アパートの1室での超至近距離演劇!



『フィクション・シティ』(2017年)  
自然と切り離された人間中心世界への  
フィクションや劇場への疑問から  
生まれた群像劇で初の公共劇場公演!



『みんなよるがこわい』(2017年)  
眠れない夜の孤独をコミカルに描き  
ツアー先の中国で連日満席に!



中国版『みんなよるがこわい』(2018年)  
現地の俳優をオーディションして  
ダブルキャストで上演!



『ミクスチュア』(2019年)  
自然と切り離された人間中心世界への  
アンチテーゼを描き  
再び岸田國土戯曲賞ノミネート!



『おわるのをまっている』(2024年)  
異国のホテルで繰り広げられる  
“うつコメディ”で人間の「不調」を描く。



<https://zeitakubinbou.com/>

「200年後にはできるようになったりしますかね」……なにを?

演劇でまなぶフェミニズムのやさしい入門書